

# 幼児の 道徳観念について



美 明 頭 驚

まえがき

幼稚園教育要領の改訂にあたって、幼児の道徳性の芽ばえを育てることがかなり積極的に指導面に取り上げられるようになってきたが、幼児期における集団生活を通して幼児の道徳性はどのように養われていくのであろうか。この点に関する調査を当園ではかなり早くから特に宗教教育を行なっていく立場からさまざまな角度で検

討を試みている。本年私共が保育学会で行なった研究発表「幼児の道徳観念について」は当園の一環した継続研究の一つであるから、一応従来行ってきた調査などを取りまとめながらその流れの中で本稿をまとめてみたいと思う。

## (一) 幼児期に芽生えた神仏観について

イ、日本の幼児の神仏観念の現われとその年令的発達をとらえてみる。

幼児期の道徳性の芽生えを培っていく要素の一つに成人の宗教的精神生活の影響は決して少なくない。そこで最初に手をつけた調査は幼児の情緒面に素朴に育ちはじめているところの神仏観念の実態を年令別、性別にとらえてみることであった。調査の結果は、神観は四才になってほぼ幼児期の確立をみるようであり、知能の高い者はすでに五、六才にかけて神を至上至善のものとする一つの世界観に到達することができるようである。保育施設や家庭環境において特別に宗教教育をほどきずとも今日幼児を取りまいて環境がそのような世界観を作り出す方向にあるということは幼児期の道徳意識もまたそのような生活基盤の上に立っているものと思われる。

ロ、更にキリスト教の影響の強い他国での幼児の神観の発達はどういうであろうか。米國幼児と比較調査する。

米國児も三、四才時代には神と人間との観念がかなり混沌として

いるが、五才以上になるとやはり神を至上至善のものとし幼児なりの世界ができ上がっていることがわかった。これに対して日本では宗教感情が日常生活の中から具体的にとらえられており、仏と死者との混同がみられるなどその内容は乏しい。米国の日本の幼児の宗教観念は自然発生的な芽生えにおいてはさして差はみせていないが、キリスト教の精神を幼児の時から日曜学校や家庭の中で教育されている米国幼児の場合とでは道徳性やその内容においてもかなり異なっていることがわかった。

(二) 善悪の判断を幼児はどのようにとらえているか。紙芝居を用いての調査

紙芝居の選択は善悪のはっきりとした内容をもつもの・悪の要素を幾つか含んでいるもの・駄目な内容を

表1 道徳判断テストのテスト内容と誤答率

テ ス ト 番 号	問 題 の 意 図	誤 答 率	
		5 才	6 才
テ ス ト 1	生命の安全を中心に歩行者に迷惑をかけないということに関する判断	8%	8%
テ ス ト 2	奉仕と愛情の行為が、利欲をねらったの行為より価値的であることの判断をみる。	15%	8%
テ ス ト 3	生きものの喜ぶ可愛がり方について、どちらも生きものを可愛がっているのであるが、どちらが、よりよいかという判断をみる。	33%	28%
テ ス ト 4	整理整頓において、手に合う修繕をするか、しないかという点についての判断を求める。	18%	12%
テ ス ト 5	自分の仕事の遂行において、予定がくるった際に放棄してしまうか、それとも恥ずかしい思いをしてもやりとげるか、についての判断。	24%	20%
テ ス ト 6	工夫と忍耐、工夫を忍耐強く重ねて行くところに成功があることに対する判断。	12%	12%
テ ス ト 7	仲間との約束を守る、フランコをかわるにも約束を守るという動機によるのと、教師という権威を恐れかわるのとでは大きい差異がある。この点の判断。	52%	24%
テ ス ト 8	あやまちをごまかさない、泣くことは感心できないが、人目のないのを幸いに、逃げかくれをするのはよくない。このような事態についての判断を求める。	36%	12%
テ ス ト 9	公德心、同じ行為をしていてもその動機が利己心である場合も多い。この点に関する判断。	33%	16%
テ ス ト 10	誰とでも仲よく遊ぶ、近代社会の子どもにとって特に大切な社会的能力である。このことについての判断。	24%	28%

含むものとした。又同一紙芝居を意図的に期間をおいて再度試行する方法もとった結果、年令が低くても漠然と良し悪しをとらえており、各年令共、一学期より二学期になるに従って徐々に判断がついてくる実体があつた。善悪の判断や物事の判断がはっきり自分で判定できない時期から道徳性の芽を養おうとする心がけがある。又確実に良し悪しははっきりしてくる時期には自分で体得、理解する機会を家庭や幼稚園で与える必要があると思う。

### (三) 幼児期の道徳意識について、道徳判断テストを使用して調査

さらに幼児の道徳に対する物の考え方、受けとり方の傾向をより科学的にとらえようと幼児が日常生活を通して熟知していると思われる事柄を意図的に取り上げ調査した。方法は、日本文化科学社発行「絵による幼児の道徳判断テスト」を使用し、幼児の解答そのままを記録した。又家庭での幼児の見方、躰の欠陥や保育の場における問題点を知るため「田研式社会成熟度診断検査」を用いて調査の参考とした。(前頁表1参照)

a 五、六才児が共通して誤答率の高かった問題につきその理由と思われる点をテスト時の解答内容から上げてみる。

(テスト7) 教師に注意されたり叱られるからブランコから降りる。

(テスト8) ガラスをわってしまった後で泣いているから悪い、

怒られないうちに逃げるといふ目先の行為を指摘している。

(テスト3) うきを抱くことも可愛がっていると考えている。

(テスト10) この問題のねらいとしている「だれとでも仲良く遊ぶ」

ぶ」という解釈が少なく、

○他家に行ったら行儀よく静かにしていた方が良い。

○話をしている母親の邪魔をしてはいけないからその

家の子と遊ぶ。

以上のような観点で解釈しているまちがいが多く家庭でのしつけられ方の一部が教師の目に触れたように思う。

b 以上のように幼児の物の考え方や理解度の傾向を多少知ることができたが、この道徳判断テストに低い評価を与えられた幼児と高い結果をもたらした幼児とではその理解度や物事の考えに特徴があるのではないかと理由から、

① 評価点が30%以下をとった幼児が道徳テストのどの項目に欠陥となつて現われているか。

② 100%という評価をとった幼児にはどんな特徴があるのであるうか。

以上二項目に焦点をしばらくこの幼児が社会成熟度診断検査100項目の内容にどのような傾向を示したか考察した。(表2)

① 道徳テストの評価点が30%以下の幼児について。

表2 道徳判断テスト評価集計

評価点 (%)	5才児	6才児
100%	7名	10名
99%~31%	17名	12名
30%以下	9名	3名

調査人員 5才<sup>33</sup>名 6才<sup>25</sup>名

つても仲間との関係や、公衆的な条件が入ってくるのと正しい判断がともないにくいようである。

このような欠陥をなせ示すようになったかという要因を知りたいと考え成熟度検査の内容のうち社会生活能力の領域別発達年令プロフィールの結果と合わせて検討してみた。五才児グループが集団への参加・自発性の欄にかんばしくない傾向がみられ、家での位置は長男、長女である。六才児グループでは自己統制に多少欠けていることがあげられる。このグループの子は一人っ子、末っ子であるがこのことがこのような結果をもたらしたのであろうか疑問も残る。

② 次に道徳テストに100%をとった幼児について。

100%得点児と30%以下得点児との人員差を五、六才で比較してみると、やはり六才児の方が道徳判断がしっかりしてきているといえる。道徳テストの解答内容は適確で理由づけもはっきりしているが、成熟度検査を見ると社会生活能力の領域の中で五才児グル

五・六才児共に仲間との約束を守る。公德心の項目に欠ける。この結果から五才では自分に与えられた物事を処理しようとする態度が消極的なためにおこる現象であるうし、六才になると個人の確立というか一人で処理する能力がある

ープは体のこなし、集団への参加・自発性にかんばしくなく生活年令以下の結果がプロフィール欄に現われている。これは問題把握はできてこの年令では幼稚園での日常行動に活力のともないにくい幼児の集まりがこの部類に入っていたためだと思う。六才児グループでは言葉での意志表示・自発性・体のこなしに優れない傾向を示し日常観察記録からも、すべてやりこなせる能力は持っているのにリードして行こうという意志の強さのみられない幼児であり、このことは偶然の結果ではないと思われる。

(四) 道徳判断テスト結果と家庭環境の関係

前記の二つの得点グループについてこのような結果をもたらしたのは家で幼児のおかれている立場が要因であろうかとの疑問から考えてみた。(表4)

表3 社会成熟度診断検査内容項目

領域	第一部社会生活能力
1.	仕事の能力
2.	体のこなし
3.	言葉
4.	集団への参加
5.	自発性
6.	自己統制

30%以下をとった幼児群においても100%をとった幼児群においても祖父母の同居と自家営業家庭が多く使用人を含めると十人前後の家族数になり人の出入りが多い。しかし100%をとった幼児群に五、六才児を含めて勤人家庭が五名いることが特記される。低い得点グループと高い得点グループとを比較した時、兄弟関係の位置、及び祖父母同居率はそれほど数的な差はみられないが、後者においては祖

表4 家庭環境（検査対象児全員）

年齢	職 業		祖父母同居	
	勤 人	自家営業	有	無
5才児	8名	25名	14名	19名
6才児	9名	16名	15名	10名

父母の權威が日常生活の中にあること、前者に比べて母親の教育態度がしっかりしていることがあげられる。又この二つの得点グループにおいて社会成熟度診断検査を教師も記入し、教師が幼児をみる見方と家庭とのずれが非常にあるのではないかという仮説も立てて試みた。社会生活能力領域にみられたプロフィールの傾向は道徳判断テストに30%以下の得点を得た五、六才児含めてほとんど評価差

がみられた。100%の高い得点を得た集まりでは五才児は幾分家庭での評価が高くなっているが、六才児になると評価差のないのが半数以上を占めており多少の変化がみられた。これは六才児には道徳判断と観念および行動がともなっている面があるからではなからうかと考える。

### ま と め

少ない資料と対象人員ではあるが以上を総合して、年齢差による道徳判断力の発達段階、問題把握のずれ、道徳判断の考えの違いなどの傾向をとらえることができたのでこれを手がかりに保育の場に役立てたいと考える。

年齢が低い場合まちがった日常行動を教師がとらえた時、幼児と一緒に考えながら教えて行く、又知らせていくことも正しい道徳心を養うための手段としてよいのではないだろうか。年齢が高くなるにつれてかなりの判断力と理解力があることがわかったので個人を対象とする以外に集団活動の中でも道徳に対する物の考え方、受けとり方を身につけさせて行かせることが必要だと思う。これに対する教師の配慮として幼児自身が考えながら判断力を身につけて行くためにグループの中から生まれた約束、きまりを守る場を与える。それにより集団への参加度を助長しその中で自覚性、大切な位置を占めている自己統制の分野をも経験させていく必要があると考える。

(一)の調査内容からもキリスト教の幼稚園では、聖書などを読んできかせることで、イエス・キリストの人格なり、考えなりがかなり幼児の心の中に浸透しているという実態が明らかにされたが、これが道徳判断の要因になっていると考えた時、ごく自然の形で幼児なりに理解し判断していく場を与えることも必要だと思う。

(二)の調査方法として紙芝居を利用したが、これも内容を選択し意図的に与えることによって生活習慣のあり方、良し悪しの見分け方、判断力を養う一教材ともなり得るものと思う。当園では釈尊伝を通してその人柄に触れることにつとめているが、宗教施設以外の園において宗教的な童話などを聞かせることも道徳の芽を養う一方法ではないかと考える。

(神田寺幼稚園)